

# 縮小社会研究会 第85回研究会



日時：2025年2月1日（土） 14：30 ～ 16：00

所：オンライン開催（zoom）

## 内発的発展論と生命誌論を参照軸とした開発原論・農学原論

講師：西川 芳昭さん（龍谷大学教授）

**講演要旨：**演者と北野収さん（獨協大学教授）は、2022年に『人新世の開発原論・農学原論 内発的発展とアグロエコロジー』という書籍を出版した（2024年創成社より新装版発刊）。国際開発学の展開や農業の思想の発展を編者らが共著者らと垣間見てきた世界中の事例を紡いで、新しい原論を築く試みであった。初版出版以来2年余りの間に戴いた多くの書評の中身は実に多岐にわたっていた。国際開発学会の書評（勝俣誠氏）はアフリカの事例の多様性に注目し、協同組合学会（古沢広祐氏）は広義の社会的連帯経済を視野に入れた動き・特に「市井の人の横のつながり」の描写を評価していただいた。有機農業学会では前会長の谷口吉光氏が、「複線的



発展論、脱植民地主義、住民主体論、人間主義、地域主義などの要素を含んでいる内発的発展論を新しい開発原論の基盤として選んだ」「生命誌の視点で内発的発展論と天地有情の農学をつなぐことを提唱し、社会科学と農学と生命科学という通常は別々の学問だと思われる諸科学をつないだ」と述べて下さっている。共生システム学会（植木美希氏）では、「開発原論・農学原論の書ではあるが、ダイバーシティーと共生そして時空を超えた命のつながりの著作と位置づけることもできる」と書かれている。編者たちの意図をはるかに超えて、様々な受け止め方があり、今後の編者たちの思考の展開に刺激を与えてもらった次第である。結局のところ、内発的発展、アグロエコロジーを問うということは、人間と自然、人間どうしの関係性のなかで、人間の存在論を考えることに帰結する。多様な人々にとっての命の尊厳と連帯の追求こそが開発原論（発展・展開）であり、自然と人間にとっての協創的な支え合いの追求こそが農学原論ではないだろうか。

2023年日本NPO学会賞を受賞した本書の紹介を中心に、演者の考える開発原論・農学原論を、特に宇根豊・中村桂子・鶴見和子の思想を参照して紹介したい。

**講師の経歴：** 龍谷大学教授、経済学部農業・資源経済学 経済学研究科民際学理論研究担当、京都大学農学部農林生物学科卒業、英国バーミンガム大学大学院生物学研究科植物遺伝資源コース（FAO監修）、同公共政策研究科開発行政専攻修了、農学博士（国際環境経済論・東京大学）、アメリカ合衆国農務省遺伝資源導入プロジェクトでバレイショの導入インターン、バーミンガム大学でソバの種子保存の研究を経て、JICA（国際協力事業団・現国際協力機構）・農林水産省等で作物遺伝資源・参加型農業研究プロジェクトに従事。名古屋大学大学院国際開発研究科教授（農村地域開発マネジメントプログラムディレクター）等を経て現職。

zoomのURL：<https://us02web.zoom.us/j/81952249681?pwd=taVETbnM2zTkCRR9G5vfGSY9uC5erh.1>

ミーティング ID: 819 5224 9681 パスコード: 530839

**参加登録：**非会員の方は松久（[h.matsuhisa@shukusho.org](mailto:h.matsuhisa@shukusho.org)）まで氏名、メールアドレス、所属を連絡願います。

**参加費：**会員は無料、非会員は500円